

【教育目標】

知的で、明るく、たくましく、共感力をそなえ、国家、社会に貢献できる人間力を養う。

【グランドデザイン～特色と魅力に富んだ、入学したくなる学校を目指して～「Speed! Challenge! Innovation!」

[目標領域1] 文武両道・全人教育(人間力の育成)

- 1 人間力育成のために学院訓「推譲・明朗・強健」の具現化を図る
- 2 男女共学化・新学習指導要領実施に伴い、多様な生徒に対応できる指導体制を構築する
- 3 多様な進路実現を達成するための学力の保証と進路指導を充実する
- 4 心の教育を推進し、共感力・自立心やたくましい精神力を養う
- 5 学校を取り巻く社会の変化に対応できる資質・能力を育てる

[目標領域2] 教育は人なり(教師力の向上)

- 1 予習・授業・復習のサイクルを明確にした「修文メソッド(カリキュラムポリシー)」を各教科で確立し、徹底させる
- 2 教員の授業力向上

[目標領域3]

- 1 地域社会に貢献し、地域の教育力を活用する
- 2 高大連携の充実

【目指す学校像】

地域に信頼される学校(地域連携・高大連携の充実)

【今年度の重点目標】

- 1 社会人となるための基本を身につけさせる
- 2 学習に対する意欲を喚起し、学力を向上させる ～学力の保証～
- 3 心の教育の充実・自立心を育てる ～心の学校～
- 4 防災教育を推進する ～安心・安全な学校～
- 5 地域の期待にこたえ、信頼される学校をつくる ～開かれた学校～

※達成度は4段階評価
4:大変よくできた。
3:まあまあできた。
2:あまりできなかった。
1:全くできなかった。

項目	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価	最終評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
普通科	基礎学力の定着	・朝の反復学習における国英数、時事に関する学び ・家庭学習の充実に向けた継続的な仕掛け	・朝の反復学習では、国語や英語の簡単なワークや計算問題への取り組み、新聞のコラムについての学習などを実施し、基礎学力の養成を図るとともに、基本的な学習習慣の形成へつなげていく。	・朝の反復学習が定着し、一日を落ち着いて始められるようになってきている。 ・基礎力診断テスト(1・2年生)にも粘り強く取り組み、D3ゾーンの生徒は非常に少なくなっている。	・朝の時間を静かに学習に使い、一日のはじめに「学びのかまえ」を意識させることはできている。	3	・各教科の学習内容との関連を意識し、内容のさらなる充実に向けて取り組んでいきたい。
	応用力の養成	・習熟度別クラス編成による授業の実施(国数英) ・コース別で行われる応用力養成のための授業 ・学力や進路希望に応じた補習の実施(進路課)	・それぞれの学力に応じた適切な指導を行うとともに、よりレベルの高い授業、補習を実施することで、生徒の(客観的に計測できる)学力を引き上げる。	・コース別の授業が徐々に軌道に乗ってきており、生徒ひとりひとりが自分の実力を伸ばさせるために粘り強く取り組んでいる。	・生徒一人ひとりの進路実現に向けてある程度のサポートはできたものの、生徒の志を高く持たせる指導については課題を残した。	2	・生徒の志望校を上げるための指導や、大学入学共通テストの結果はまだ満足のできるものではない。すべての教科が一丸となって学力の向上に臨む必要がある。
	視野の拡大	・進路行事の実施時における振り返りの徹底 ・CPタイムの積極的な活用	・自身の適性や進路希望について、年間を通じて絶えず思考を深めさせる。 ・自分の生活を自律的に振り返ることで、自分にできることを増やしていく。	・2年生はここからコースの選択があるので、引き続き自分の目標とする進路の明確化と、その実現に向けた綿密な計画の立案を目標に、指導に当たりたい。	・進学行事が多くなかった今年度は、特に生徒たちへの「意図的な進路指導」が難しかったが、その中であっても、HR担任の先生方が工夫して指導を行ってくれた。新2・3年生の進路希望には一定の見通しが持てた。	3	・進路指導、とりわけ進学指導の「系統性」を担保し、早いうちから様々なしなかけを施していけるよう、研究を進めたい。
	可能性の追求	・模試の積極的受験の奨励と対策の実施(進路課)	・自らの能力を過大評価、過小評価することなく、目的に向かって一心に学習に取り組む姿勢を育む。	・模擬試験の受験と毎日の授業との関連を意識し、得点を伸ばしている生徒や教科がある一方で、まだまだ徹底し切れていない部分もある。残り半年も同様に努力する。	・模擬試験の実施については、感染症の拡大が叫ばれる中ではあったが、進路課の先生方の力で、無事実施できた。	3	・今年度の結果を受けて、来年度の結果をその差異として把握することで、進学指導の精度を高めていきたい。
情報会計科	積極的な資格取得と納得のいく進路実現	・夏季補習、検定直前補習、朝補習の充実 ・緻密な進路指導 ・個人面談の充実	・組織的な検定補習によって、卒業時に全員が技術顕彰の受領を目指す。 ・進学希望者には、個人面談を実施するとともに、資格を利用した推薦制度の紹介をする。 ・就職希望者には、個人面談や面接練習等を実施し、きめ細やかな指導をする。	・おおよそ70%の生徒が技術顕彰の受領をすることができた。 ・3年生の進学者・就職者の指導については、学科で担当者を割り振りし、組織的に取り組んだ。 ・充実した個人面談を行い、悩みや問題の早期発見・早期対処に努めることができた。	・88%の生徒が技術顕彰の受領をすることができた。 ・どの学年においても検定取得に向けて、積極的に取り組むことができた。 ・3年生全員が、納得のいく進路選択ができた。 ・充実した個人面談を行い、悩みや問題の早期発見・早期対処に努めることができた。	3	・次年度は、全員の技術顕彰受領を目指したい。 ・次年度においても、積極的な検定取得に取り組ませたい。 ・次年度においても、納得のいく進路選択ができるような指導をしたい。 ・次年度においても、個人面談を充実させ、きめ細やかな指導をしたい。
	ビジネスの諸活動で即戦力となる人材の育成	・報連相の徹底 ・凡事徹底 ・ICT教育の充実と活用	・報連相を徹底することで、コミュニケーション能力の伸長を図る。 ・挨拶、授業準備、課題提出等の凡事徹底を通して、社会人基礎力を身につけさせる。 ・ICT機器やクラウドを活用し、最先端のICT教育を推進する。	・社会人に求められるコミュニケーション能力に力点を置いて日頃から指導を実施し、一定の成果を得ることができた。 ・BLENDを活用し、毎月末に学科アンケートを実施し、PDCAサイクルを促すことができた。	・あらゆる事柄の指導において、報連相や凡事徹底を心がけたことで社会人基礎力が身についた。 ・BLENDを活用し、毎月末に学科アンケートを実施し、過去の自分・今の自分・未来の自分と向き合うことができた。	4	・社会人基礎力は、どの時代においても求められる不易の部分であるので、引き続き目標として掲げ指導していきたい。 ・ICT教育は、現代において求められる流行の部分であるので、引き続き目標として掲げ指導していきたい。
家政科	専門教科の技術の習得と資格取得	・家庭科技術検定にむけての補習の実施 ・徹底反復学習等における検定問題への取り組み	・家政科としての自覚を持たせ、被服、食物、保育の技術と知識を身につけさせる。 ・課題研究選択コースについての検定に積極的に取り組ませる。	・非常勤講師の先生方にもご協力いただき、作品製作のための基礎知識の定着を図った。 ・家庭科技術検定に多くの生徒がチャレンジした。	・2年生から履修する課題研究(食物)の授業で着実に力をつけたことにより、全国高校家庭科食物調理技術検定1級に3名合格することができた。 ・その他のコースにおいても、検定上位級合格に向けて積極的に取り組んだ。	3	・新課程となる入学生の3年後の進路を見据えた指導内容についてもしっかりと検討をしていきたい。
	自ら考え行動できる力の育成	・報連相の徹底 ・リーダーとなれる人材の育成 ・外部イベントへの積極的参加	・基礎学力や基本的な生活習慣を身につけさせ、計画的に学習・作品製作を進められるようにする。 ・個人面談を定期的実施し、生徒の実態を把握する。	・NHK情報番組の取材や、「イオンモール木曾川つむぐ青春プロジェクト」や「尾州テキスタイルプロジェクト」への参加など、外部イベントに積極的に関わることができている。 ・個人面談を定期的実施した。	・学習や作品製作など、物事に計画的に取り組むことができる生徒が増えてきた。 ・コロナ禍でイベント自体が減少してしまったが、参加したイベントにおいては、地域と連携して積極的に取り組むことができた。 ・個人面談を定期的実施した。	3	・コロナ禍で難しい面はあるが、今後も地域との連携を図りながら、各種イベントに積極的に取り組んでいきたい。 ・各種行事において、教員主導ではなく、生徒主体で実施できる力を付けさせたい。
食物調理科	調理技術と知識の習得	・定期的な個人面談を実施 ・各種検定取得に向けての対策補習の実施	・個人面談を定期的実施し、一人ひとりの特性の把握に努め、問題の早期発見・早期解決を図る。 ・基本的な生活習慣を確立させ、調理師としての自覚を育てる。	・面談を定期的実施するだけでなく、BLENDを活用し、生徒とコミュニケーションを取ることができ、問題の早期発見・解決ができている。	・調理師免許や各種検定取得のため、知識や技術の習得に励んだ。 ・身だしなみや衛生管理に気を配ることができた。 ・定期的に個人面談を実施することができた。	3	・高度な知識や技術の習得をめざす。また、聞く力やチームで働く力を身に付けさせるようにする。 ・男子生徒の就職先の開拓。

項目	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価	最終評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
食物調理科	地域に根づく学科	・地域活性化事業への参加 ・地元企業との商品共同開発	・一宮市にちなんだメニューを考案する。継続的に商品化できるように地元企業に働きかける。 ・地域の方々と接することで、コミュニケーション能力を育てる。	・名鉄グランドホテルと2年連続おせち企画を実施。『地域のおいしさ全国へ～幸せいっぱい万福おせち～』を販売予定。 ・コメダ珈琲店とのコラボ企画、『シュウコメ珈琲店』が現在進行中。	・『シュウコメ珈琲店』が大盛況に終わった。来年度も継続してコメダ珈琲店とコラボ企画を実施していきたい。 ・様々な制限がある中で、外部との企画はできる範囲でしっかりと実施できた。	3	・新たな企業との共同開発ができるように、外部へ食物調理科をアピールしていきたい。 ・外部との企画に対応できる組織を作っていきたい。
総務課	防災に対する取り組みの推進	・防災教育の推進、防災マニュアルの構築	・危機を予防するために、安全点検・防災訓練・教員研修を実施し、安全に行動できる知識や能力を育成する。	・4月に避難訓練、9月に災害時伝言ダイヤル体験訓練及びシェイクアウト訓練、10月に防災講話(1年生対象)を行った。 ・防災マニュアルは、令和3年度作成版を更新した。 ・今後も安全点検を定期的に行い、迅速に修理改善に努める。	・防災マニュアルの更新、防災訓練、安全点検、防災講話を実施し、防災意識の涵養に努めた。	3	・安全行動が的確にできるように教員研修を行い、危機管理体制の構築、周知徹底をする。
	PTAや同窓会との連携の推進	・PTA活動の主体的な取り組みへの支援 ・同窓会などの情報発信	・校務支援システム(BLEND)やホームページを通して取り組みを紹介し、協力連携を図る。	・今年度は5月にPTA総会を行い始動したが、その後の行事はコロナ感染拡大防止のため中止となった。 ・同窓会総会は、コロナ感染拡大防止のため中止となった。	・コロナ禍で、できる限りの活動を行ったが、活動の制約により、役員をはじめ会員のつながりが希薄になったのではないかと心配される。。	3	・PTA活動や同窓会組織の主体的活動への支援を強化する。
教務課	生徒の学力向上	・基礎学力の定着と応用力の養成	・学習コンクールで60点以上、基礎力診断テストでD2以上、到達度テストでの運動課題配信を促し、入試に対応できる運用能力を身につけさせる。	・1、2年生対象の学習コンクールは、ほとんどの生徒が60点以上であった。また、全学年対象の到達度テストでの運動課題に期日までにほぼ全員が完了した。	・1、2年生対象の学習コンクールは、ほとんどの生徒が60点以上であった。また、全学年対象の到達度テストでの運動課題に期日までにほぼ全員が完了した。	3	・1・2年生の段階で基礎学力の定着を図りたい。
		・英語教育の充実	・本校での英語活動を通して興味関心を抱かせ、英語力向上だけではなく、積極的に活用できるようにする。	・オンライン英会話やALTの授業、パフォーマンステストを授業で含めることで、会話への積極性が身につくようになる。	・オンライン英会話、ALTの授業、パフォーマンステストを実施することで、積極的に英語を活用・運用する環境を構築できた。	2	・コロナ禍の影響で学校外での活動が制限される中、別の形で英語活動を充実させたい。
	教員の授業力向上	・授業規律の確立と授業力の向上	・始業や終業のけじめと挨拶を徹底する。 ・ICTの授業を取入れ、アダプティブな対応で生徒の学習効果の向上に努める。	・全教室にプロジェクターを設置したことで、黒板に投影しながらの授業が増えた。スタディサプリやロイノートの活用率が高まっている。	・始業時の着席が昨年度より定着してきた。また、授業観察やオンライン教員研修を実施することで、学習意欲を高める授業力向上に努めた。	3	・ICTを活用した授業・学習をさらに充実させていく。
	図書館の利用促進	・読書環境の整備	・良質な読書環境を整備する。 ・図書館を授業・特別活動等で計画的に利用し、生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実を図る。	・図書委員会だより(Lメール)を毎月発行し、推薦図書・新着図書を紹介した。 ・図書委員が書棚の表示を作成したことで、どのような系統の本が書棚にあるかが明白になった。	・図書整理を行ったため、読書環境の整備は進められた。 ・コロナ禍のため積極的な活動ができなかったが、3学期は一宮市100周年をテーマに企画展を行った。	3	・読書・学習環境をより充実できるよう、授業・特別活動・図書委員会を中心に、関連する部署との連携を図りたい。
生徒課	品位ある生徒の育成	・挨拶	・挨拶が飛び交う雰囲気づくりを醸成する。 ・コロナ禍に適した挨拶を励行する。	・部活動生徒による朝の挨拶運動など、挨拶が飛び交う雰囲気ができているが、緊急事態宣言中は中止をした。	・部活動生徒、委員会活動による挨拶運動により挨拶が飛び交う雰囲気を作り出すことができた。社会情勢に鑑み挨拶運動を中止する期間も設けた。	3	・日本一の挨拶ができる学校を目指していきたい。
		・交通マナー、登下校マナーの確立	・交通事故「0」を目指し、交通マナーを遵守する。 ・見回り指導を実施し、正しいマナーを身につけさせる。	・交通事故「0」は達成されなかった。見回り指導も回数が増えている。後期は見回り指導を増やしたい。	・交通事故報告が9件であり、交通事故「0」は達成できなかった。見回り指導の回数も著しく増加させることができなかった。	2	・来年度は生徒数の増加により苦情の増加も予想される。生徒課での見回り指導を増加していきたい。
	男女共学化への取り組み	・生徒主体の活動	・男女共学化に向け、校則の見直しを図る。	・校則の見直しが進んでいる。	・校則の見直しを進めていくことができたが教員主体であった。	3	・男女共学化や時代背景に則した校則の見直しを進めていきたい。生徒会の意見も聞いていきたい。
		・部活動の見直し	・男女共学化に向け、新設・統廃合などを含め整理する。	・新設部活動が決まり、準備を進めている。活動場所の決定をしていきたい。	・新設部活動の活動場所の決定にまでは至っていない。	2	・部員数により活動場所、統廃合を順次進めていきたい。
	健康管理の徹底	・心身の健康意識の向上	・定期的に保健だよりを配付し、生徒や保護者に情報提供と協力を得る。 ・相談室開室日を定期的に知らせ、相談により心の安定した日常を送ることができるようにする。	・定期に保健だよりを発行し、季節ごとの健康話題や新型コロナウイルス感染症の予防対策について継続掲載した。 ・相談室開室日の情報を掲示して、生徒の予約を呼びかけた。今後も安心して相談できる環境対応に努めていきたい。	・コロナ禍における予防対策の徹底を、保健だよりや掲示物を通じて情報提供することができた。 ・教育相談室の予約に際し、生徒や担任とスクールカウンセラーとの連携協力を慎重に行えた。	3	・男女共学に向けた保健だよりを工夫することや、教育相談室の安心利用をさらに呼び掛けていくことに努める。
進路課	妥協のない進路目標とその実現	・進路行事の連携と意識づけ	・継続的かつ明確な目的を持った指導により、3年間の熟慮の結果として進路選択をさせる。	・昨年度に引き続き、コロナ禍のため、十分な進路行事が行えないが、Web等を利用し、可能な限り情報の提供に努めている。	・コロナによる進路行事の変更が何度もあったが進路を選択するうえでの情報提供は絶え間なく行えた。	3	・明確な進路目標を持たせ、それを常に意識させるよう、オンライン等の媒体を最大限利用して働きかけをする。
		・多様な入試制度の活用	・月に1回程度、外部から講師を招いて研修会を実施し、進路課員の進路指導力を高めるとともに、常に新しい情報を得て進路指導を充実させる。また、進路検討委員会を計画的・定期的に行い、様々な入試制度への対応策を研究する。	・進路課員と3年生の担任の合同研修会を月に1回のペースで開催し、進路選びの現状や、指導方法について研鑽を積んでいる。	・年間を通して研修を行い、外部から情報をもらい続けた結果、進路課員の進路指導力はより向上し、また、時代に合った適切な指導が行えた。	4	・マンネリ化を防止するため、各回で今年以上に工夫を凝らしながら、継続的に研修会を実施する。
		・就職試験対策の強化	・就職試験対策の補習により基礎学力の定着を図る。また、面接試験において加点となるような面接指導を実施し、全員が第一志望の企業に合格できるようにする。	・授業後に集団面接指導を行い、面接試験対策を徹底した。また、個人面談を繰り返し行うことで、本人の希望や適性に合った求人先を見つけて受験させることができた。	・何度も繰り返し生徒と面談を行い、適性を見極めながら就職先を紹介し、希望者全員の内定を獲得することができた。	4	・例年よりも早めに進路面談を実施し、生徒の希望、家庭の要望、社会の変化に対応する就職先を斡旋する。
広報課	情報発信と広報行事の充実	・ホームページ・SNS・学校案内・広報行事を通して、本校の魅力を、読者目線に立って発信	・ホームページ、SNS、学校案内等、より一層見やすく魅力的なものにしていく。 ・オープンスクール、入試説明会等のPRをより一層拡充し、本校の魅力を発信する。	・ホームページに加え、facebook・Instagramといった情報発信を一新し、現在継続的に活動中である。また、NHKや中日新聞といったメディアで取り上げられる機会も増えた。	・ホームページ・You Tubeを公式発信のソースとし、本校の魅力はfacebook・Instagramで発信し続けた。その結果、読者が得たい情報の分類が明確となり、より一層見やすく、内容も拡充した。	4	・新しいSNSの運用方法を検討し、より一層拡充した広報活動を開拓することで、イベントでの集客率を増加させたい。